

開催日時:令和7年6月23日(月)10時～ 会場:コミュニティスペースやまや

【出席者】新津西部コミ協:蓮沼会長、奥山副会長、内田副会長、斎藤事務局長、新津西部民協:佐藤会長
町内会:中村会長(山谷1)田邊会長(山谷町2.3)、五十嵐会長(南町二区)、野原会長(新栄町)、川内会長(新津緑町)、吉田会長(古田)、押味会長(天神)
(株)ウェルケア新津:杵鞭社長、(福)親和福祉会ほっとサポートしんえい:山本管理者、(福)藤の木原福祉会:佐藤理事長、リハステーションてんじん:新保相談員
地域包括支援センター新津:丸山保健師、羽深主任CM、秋葉区社協:秋山事務局長補佐、佐藤(地区担当)、加藤(支え合いのしくみづくり推進員)

地区別計画推進目標ごとに推進できそうなこと		地域の取組みをする上での課題解決のためにできること
1 明るく元気な地域づくり	3 健康で豊かな地域づくり	1 組織のつながりの中でニーズ把握⇒全体での課題共有のために
①地域みんなで子ども達を育て、世代間交流事業を行おう ・子どもの居場所づくりの検討	①趣味・特技で健康寿命の地域を築こう ・フレイル予防の推進の継続	・新津西部地区の地域ネットワークができると良い
②隣近所で支え合い、協力しよう ・14町内会の共通課題である担い手不足に対する取り組みが必要	②高齢者がいきいき暮らせる仕組みを築こう ■生活支援 ・ビジネスみゆき(美幸町)、新栄町・新津緑町支え合い移動支援の継続 ■地域と福祉施設との連携 ・リハステーションてんじんの会場提供による「サロン天神」運営の継続 ・サロンへの送迎があると良い →藤ノ木原福祉会 藤花がサロンほか移動支援について検討可能	
	③体を動かす環境整備を行おう	
2 安全で安心な地域づくり	4 相談しやすい体制づくり	地域の課題のためにできそうなこと
①日頃から顔の見える地域づくりを行おう ■見守り ・歳末見守り事業の拡充(その他見守り活動の推進) ・地域福祉活動の推進 ■緊急情報キット配布を通じた地域のつながり ・備えの必要性を周知していく。 ・情報用紙の記入が大切であるが、書きやすい工夫が求められる。 ・薬説明書をキットの中に入れる呼びかけを広める。 ・キットの配布先情報を町内会が把握すると良い。 ・町内会報やいきいきサロンでPRしたところ多くの反応あり(新栄町) ・緊急情報キットの趣旨を回覧で周知し、配布の際には冷蔵庫に保管することや情報更新についての声かけを継続する。(山谷町1) ■避難行動 ・避難行動要支援名簿・個別避難計画・キットの連携を一元化すると良い(個別の避難計画づくりに苦慮) ・避難行動要支援者情報の把握を継続(山谷町1) ■福祉施設と地域とのつながり ・(ウェルケア新津)避難体験をしてみる→(課題)デイサービスの活用や地域連携をどのようにとるか ・(ほっとサポートしんえい)障がい者と地域の人との共存を大切にした地域づくり ・(藤ノ木原福祉会 藤花)法人と地域とのスポーツイベントを開催する	①広報(コミ協・町内)の手段を工夫しよう ■町内の状況把握 ・953世帯ある町内会で、新1年生、出生、死亡等の情報を広報に掲載したいが把握する方法を検討する必要がある(山谷町2・3丁目) ■相談機関等の連携 ・社会福祉法人ネットワークの構築が大切(地域と法人のつながり) ・個人情報の関係で家庭に踏みこむことの難しさを感じている。各機関との横の連携があると良い。(包括新津) ■その他 ・町内会長交代の引継ぎが大切である ・障がい者の特性を考慮した雇用のあり方を考える必要がある	
②安全教育を通じ安全意識の向上に努めよう ■中学校との連携 ・新津一中との防災学習の継続(避難所運営に中学生の協力が必要になることから) ・地域の防災訓練、一中防災講座に参加(藤ノ木原福祉会 藤花)	②行政・学校・地域の情報交換を強化しよう ・包括支援センターと町内会との連携が必要である。	
	③地域住民が集いやすい施設を設けよう ・リハステーションてんじんの会場提供による「サロン天神」運営の継続(再掲)	